

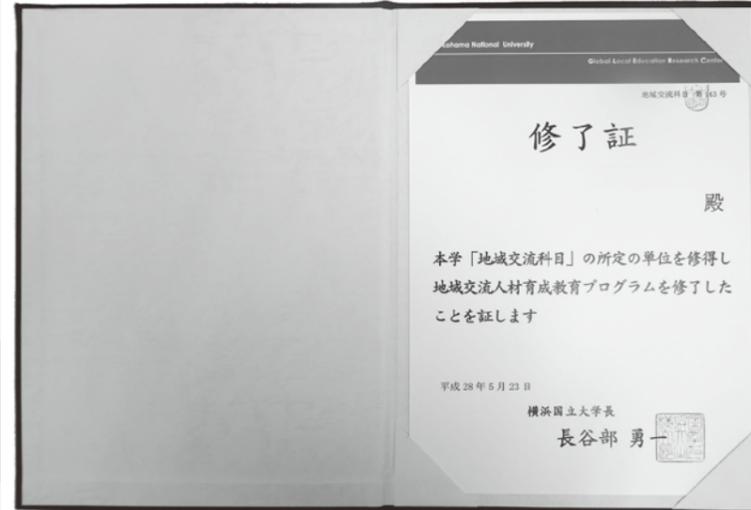
地域交流科目

シラバス 2018

YOKOHAMA

オリエンテーション
4/16 (月), 4/19 (木), 4/20 (金)
昼休み・中央図書館メディアホール

修了証



「修了証」取得者からのメッセージ



村本真菜
Mana MURAMOTO

教育学部 卒業
現在、名古屋鉄道株式会社

地域交流コア科目： 地域連携と都市再生A・B
選択必修科目： ワークショップ「多角的共生をめざして」
建築の環境と防災、共生支援論 A
地域課題実習： 公共空間の活用とにぎわいづくりPJ

地域交流科目を受講する事で、まちづくりやNPOで活躍している外部の方と交流し、実践的な考えを知る機会を得ることが出来ました。講義で学んだ事を生かし、私は3年間、和田町商店街で賑わいづくりの活動に取り組みました。商店街や地域の住民の方々と共に和田町を盛り上げていく中で、人と人との繋がりの大切さを再確認し、身近な地域に対し自分がどのように関わっていくべきかを考える事が出来るようになりました。



足立喜一郎
Kiichirou ADACHI

経済学部 国際経済学科 卒業
現在、横浜市役所

地域交流コア科目： 地域連携と都市再生A・B
選択必修科目： 地方財政
地域課題実習： 地域から水と大気を考えるエコプロジェクト

神奈川の自然はどうなっているのか。環境政策は何か行われているのか。地域を限定した身近なテーマ設定により、普通の授業では得られない臨場感を味わいました。実際に行ってみないと分からないことばかりで、新しいことを学ぶたびに人のつながりが増え、広い視野を持つことができました。地球規模の環境や経済も、地域で人が影響しあうことから始まると身をもって感じました。これからも「グローバル」を心がけようと思います。



市木晶子
Akiko ICHIKI

経営学部 会計・情報学科 卒業
現在、ソーニエ株式会社

地域交流コア科目： 地域連携と都市再生A・B
選択必修科目： 建築の環境と防災、環境をめぐる諸問題、企業環境システム論
地域課題実習： エコの芽を育てるプロジェクト

私は「エコの芽を育てるプロジェクト」に参画しました。1年目は上級生と私の4名でしたが、2年目は同学年の学生が加わり8名になりました。地域課題実習では学内から外に出て、地域の方に厳しくも温かいご指導を頂く機会もあります。自ら課題を設定し、積極的に動くことを通じて、沢山のものを得ることができます。年度末には成果発表の機会があるので、自分のしたことをしっかりとプレゼンテーションできる能力を高めて下さい。



小竹 杏奈
Anna ODAKE

理工学部 海洋空間のシステムデザインEP
現在、東京都庁

地域交流コア科目： 地域連携と都市再生A・B
選択必修科目： 建築・地域環境計画Ⅰ、現代の物流経営
地域課題実習： おおたクリエイティブタウン研究PJ
ガスシティPJ、水辺と共生するデザインPJ

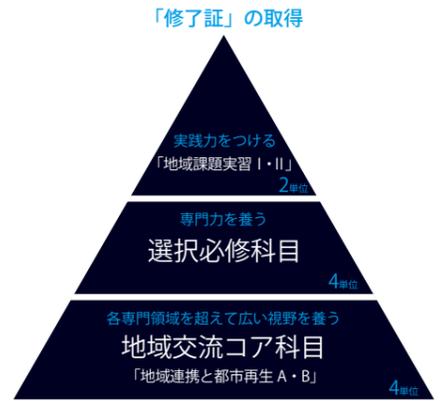
在学中の4年間、毎年違うプロジェクトに参加してきました。自身の専攻以外の先生方の下で、学部も学年も違うメンバー、時には外部の方と一緒に興味ある分野について課題を考え、試行錯誤しながら解決にむけて活動していくのは本当に新鮮で、年度の終わりには毎年ものすごい達成感がありました。自分の興味に合わせて幅広く勉強、活動できる機会や環境はなかなかありません。ぜひ地域にたくさん関わってみてください。

『地域交流科目』の概要

グローバル化が進むなかで、実際の経済活動の場である都市・地域のそれぞれが活力を維持し、そこに生活する市民の生活の質をいかに高めていくかが21世紀初頭の大きな課題になっています。このような現代的課題とニーズに対応するため、本学では「教育学」「経済学」「経営学」「理工学」が連携して各学部領域を横断して学ぶ副専攻プログラム『地域交流科目』を設置し、グローバルな視野をもって地域課題を解決できる先端的かつ複合的な実践能力を身につけるプログラムを運営しています。『地域交流科目』は、①「地域連携と都市再生」4単位、②「選択必修科目」4単位、③「地域課題実習」2単位から成る科目で構成されています。この科目の受講・参画により所定の10単位を修得すると、副専攻プログラムの修了証を取得できます。

副専攻プログラムとは

知識基盤社会が求める総合性・学際性への対応、また学生からのニーズへの対応として自らの所属する専攻(課程・学科)以外の分野を系統的に学習するプログラムです。



履修・申請の流れ



「オリエンテーション」

4月16日(月),19(木),20(金) 昼休み
場所:中央図書館メディアホール

地域交流科目の説明と、地域課題実習の各プロジェクトの紹介を行います。興味・質問がある人、履修する予定の人は参加してください。



「履修登録」

春学期：4/6(金)～4/20(金)
秋学期：10/5(金)～10/19(金)

- ・「地域連携と都市再生A・B」(教養教育科目)
- ・「選択必修科目」(教養教育科目・学部専門科目)
- ・「地域課題実習Ⅰ・Ⅱ」(教養教育科目)

履修申請は、裏頁の地域交流科目一覧を参考にしながら登録しましょう。地域課題実習は春学期「地域課題実習Ⅰ」、秋学期「地域課題実習Ⅱ」毎に履修登録する必要があります。秋学期に履修登録を忘れる人が多いので気をつけましょう。

「地域課題実習」 参画したいプロジェクトを申請

■申請×切は4月20日

地域課題実習を単位履修する人(あるいは単位なしでも参画する人)は希望プロジェクトを申請してください。申請方法は2通りあります。

- ・右記の「QRコード」から登録。



- ・下記サイトから、「『地域課題実習Ⅰ・Ⅱ』参画プロジェクト希望用紙」をダウンロードして、地域実践センターに提出。
http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp/45form/pdf/gb_1.pdf
検索 地域課題実習 参画プロジェクト希望用紙

「地域交流科目」

- ・「地域連携と都市再生A・B」
- ・「選択必修科目」
- ・「地域課題実習Ⅰ・Ⅱ」

10単位

『地域交流科目』は4年間をかけて履修し、修了証を取得することが可能です。各科目をいずれから履修しても良いですが、教養教育科目の「地域連携と都市再生A・B」を1~2年生のうちに履修するとスムーズです。



「修了証」

申請×切:4/20,11/22,3/4

地域交流人材育成教育プログラムの修了認定

「修了証取得者からのメッセージ」を参照に。

修了認定の要件は以下の通りです。

① 地域交流コア科目(必修)	4単位取得
② 選択必修科目	4単位以上取得
③ 地域課題実習(必修)	2単位取得
④ 上記①~③の申請に基づくGPA ^{※1}	3.0以上

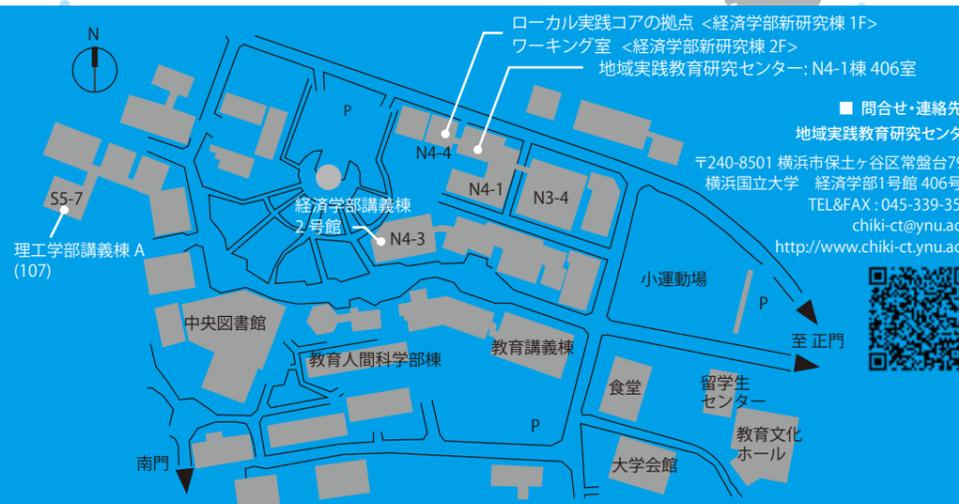
修了すると修了証の授与とともに、修了記録として成績証明書の特記事項欄に「副専攻プログラム(地域実践)修了」と記載されます。また、センターのHPにて修了者の紹介が掲載される予定です。就職や進学の際、各自の実践的な取り組みを端的にアピールするものとして効果が期待できます。修了証は自己申請により発行されるものであり、下記3点の提出が必要です。

- 1:地域交流科目 修了認定申請書
右のQRコードからダウンロード or 検索 地域交流科目 修了認定申請書
 - 2:成績証明書
 - 3:レポート等
- 提出は随時受け付けていますが、4/20,11/22,3/4毎に×切り、5月、12月、3月に発行されます。申請者の学部学年は問わず、大学院生も申請可能^{※2}です。



※1 GPA(成績評価)にあたっては、入学年度に応じた算定を行います。
※2 地域交流人材育成教育プログラムの修了認定に際して「選択必修科目」は他大学で修得した科目による認定もできる場合がありますので、個別に相談下さい。

グローバルな視野をもって地域課題を解決する
先端的かつ複合的な実践能力を身につけるプログラム



「地域課題実習Ⅰ・Ⅱ」

下記の紹介掲載欄の①～⑥の項目内容　：①概要・目的・活動の流れ、②当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力、③年間スケジュール、④活動・ミーティングの頻度、⑤備考、⑥活動情報掲載サイト

モビリティ・デザインの実践
<p>担当教員：○中村文彦,田中伸治,有吉亮三浦詩乃（都市イノベーション研究院） 連絡先:nakamura-fumihiko-xb@ynu.ac.jp/内線 4033</p>
<p>①交通を中心としたまちづくりに取組む都市を対象に都市交通デザインを導く。受講生は行政等の実務者に協力を仰ぎつつ成果を導く。都市と交通に対するプランニングマインドを備えた人材を育む実践的実務を行う。</p> <p>②都市計画、都市デザイン、都市交通計画の実務では空間・経済的制約の下、事業を完遂せねばならない。既存資源を最大源活かし、まちづくりの観点を対する望ましい都市と交通のあり方を提案する能力を習得してもらう。</p> <p>③原則、前後期共通のテーマ設定を行う。1.公共交通、2.街路デザイン、3.本学COIプロジェクトを具体的テーマとし、6～7の学生グループで活動する。</p> <p>④指導陣と受講学生が議論・作業する時間を1限/週確保している。必要に応じ、対象地へ視察・報告会に赴く。</p> <p>⑤全学部生対象。但し25人超の場合は人数調整の可能性有。</p> <p>⑥交通と都市研究室HP： http://www.cvg.ynu.ac.jp/G4/</p>

データで捉える地域課題・地域経済2018
<p>担当教員：○居城琢,岡部純一,氏川恵次相馬直子,池島祥文（国社） 連絡先:ishiro-taku-vr@ynu.ac.jp/内線 3567</p>
<p>①本プロジェクトは生活上で生じるさまざまな問題点を対象に、調査を取り組み、住みよい地域をつくるための素材を発掘することを旨とします。その成果を蓄積していく中で、横浜市・神奈川県の各自治体との共同研究、地域の企業との共同研究として地域の中で実際に起きている諸問題に対して、現場の視察・ヒアリングを通じて、自分の目と耳で確かめて、その解決策を導く糸口を見つけられることを期待します。</p> <p>②実際に地域の現場に飛び込むことができる学生を求めます。ただし、5人以上の参加がない場合は、グループでの活動が難しくなるため、個別研究になる場合があります。参加希望者は事前に教員と相談することをお勧めします。</p> <p>③4月～5月 課題の設定にむけた検討会/6月～8月活動/10月 中間報告会/11月～1月活動/2月 最終報告会/3月成果報告書の作成</p> <p>④基本的には、学生自身による自主的なプロジェクト活動になりますが、横浜市職員の方々の支援を受けながら、調査を進めていくことができます。みずから課題の設定、調査、成果報告に向けた準備・活動を進める能力が養われます。</p>

屋台まちづくりプロジェクト -ハマの屋台でまちを豊かに-
<p>担当教員：○野原卓（都市イノベーション研究院） 連絡先：noharat@ynu.ac.jp /nohara-taku-zs@ynu.ac.jp / 内線 4065</p>
<p>①近年、公共・外部空間で盛んな、「小さな屋台」をまちのコミュニケーションツールとして用いたまちづくりの可能性を探る。「ほどわごん」の実績も活かしつつ、屋台の企画運営、製作、設置場所のあり方・仕組み、まち・市への波及を考える。</p> <p>②地域づくり・まちづくりに、自分の専門性と幅広い視野を同時に持ちながら実践的に取り組む「アーバニスト」としての把握力、構想力、応用力の習得を図る。また、自らことを興し、動く現場力も養う。</p> <p>③春・秋学期：月二回程度の会合と拠点活動,不定期での課外活動/その他：不定期での課外活動（チームの話し合いで相談）</p> <p>④月二回程度の会合、不定期での地域との打合せ・イベントへの参加等、チームで相談しに参加する。</p> <p>⑤地域課題に責任を持って取組み、会合や実践に積極的に参加できることを条件とする。</p>

おおたクリエティブタウン研究プロジェクト（モノづくりのまちづくりを考える）
<p>担当教員：○野原卓（都市イノベーション研究院） 連絡先：noharat@ynu.ac.jp /nohara-taku-zs@ynu.ac.jp /内線 4065</p>
<p>①自分の身の周りにあるモノはどこで誰が創っているのだろうか？大田区内にあるモノづくりのまちで「価値を生むまち」とすべく、まちづくり調査・提案・実践、イベント(オープンファクトリー)参加・活動の企画運営を行う。</p> <p>②「モノづくりのまち」に積極的に関わることを通して、地域の個性を「つかむ力」、課題解決方法を考える「想像力・創造力」、地域住民や団体等との協働活動を通じた「実践力・実効力」を身につけることができる。</p> <p>③春学期：週一の会合と月数回の拠点（くりらぼ多摩川）活動企画運営/秋学期：同上、11～12月 おおたオープンファクトリー参加・まちづくり提案発表</p> <p>④月一回程度の拠点活用企画参加、週一回の学内会合、その他不定期なイベント・取材等</p> <p>⑤一般社団法人おおたクリエティブタウンセンターや町工場等と協働する。地域課題に責任を持って取組み、会合や実践に積極的に参加すること。</p> <p>⑥http://www.o-2.jp/mono , http://oct.c-cm</p>
<p>留意事項：実習時の怪我や事故の可能性を考慮して、入学時に学生教育研究災害傷害保険が協働学生総合共済（生命共済）等の保険に加入していない学生は、保険に加入すること。</p>

かながわ里山探検隊
<p>担当教員：○小池治（国際社会科学研究院） 連絡先：koike-osamu-fp@ynu.ac.jp /内線 3642</p>
<p>①神奈川県内の里地里山をフィールドに地域活性化の課題をさぐるプロジェクトです。現地調査では、県内各地で里地里山の保全に取り組んでいる団体のイベントに参加したり、農業体験等を行います。</p> <p>②県内で里地里山の保全に取り組んでいる団体や行政の担当職員、他大学の学生との交流をつうじて地域づくりの課題や方法を学びます。フィールド調査を踏まえて持続可能な地域づくりのアイデアを考えてください。</p> <p>③4～8月 里山探検Part1（草刈り、田植え、草取り等）10月～1月 里山探検Part II（稲刈り、収穫体験、収穫祭）2月 成果報告会</p> <p>④ミーティング（学習会）は隔週。フィールドワークは週末を中心に月に1～2回程度を予定</p> <p>⑤農業や環境保全に関心がある人、年間をつうじて活動に参加できる人を募集します。</p> <p>⑥http://ynusatoyama.wpblog.jp/</p>

市民活動を体験して考える 協働型まちづくりプロジェクト
<p>担当教員：○志村真紀・高見沢実(地域実践センター） 連絡先：shimura-maki-pw@ynu.ac.jp /内線 3579</p>
<p>①横浜市には、環境保全、地域福祉、子育て・子ども青少年支援、国際協力、IT・アートによるまちづくり等をテーマとした活動をしているNPOが多くあり、その数は日本一と言われています。NPOによる市民活動の実態や課題を現場で体感する活動を軸に、横浜市内のNPOに、夏休みに10日間以上の短期インターンか、1年間の長期インターンへ行くことを行っています。</p> <p>②NPOによる市民活動の実態や課題を現場で体感する活動を軸に、協働型まちづくりについでに体験して考え、自らが主体的に学ぶ活動です。</p> <p>③5～7月 市民活動団体とのマッチング・研修,夏休み：インターン,11～1月 NPOインターンを踏まえた実践的活動</p> <p>1月 報告書まとめ・提出</p> <p>④ミーティングは約隔週。</p> <p>⑥NPOアクションポート横浜： http://actionport-yokohama.org/npointern/index.html</p>

New - New Townプロジェクト -郊外住宅地の新しいまちづくり-
<p>担当教員：○野原卓（都市イノベーション研究院） 連絡先：noharat@ynu.ac.jp /nohara-taku-zs@ynu.ac.jp / 内線 4065</p>
<p>①オールタウン化しつつある郊外（ニュータウン・ベッドタウン）を持続性のある豊かなまちに再帰するための行動を考えるプロジェクト。地域拠点「みなまきラポ」への参加、リサーチを基にした提案、多主体協働でのプロジェクト実践を行う。</p> <p>②地域づくり・まちづくりに、自分の専門性と幅広い視野を同時に持ちながら実践的に取り組む「アーバニスト」としての把握力、構想力、応用力を養う。また、地域や専門家、社会人との協働による実践力も習得を図る。</p> <p>③春学期（4～7月）：南万騎が原駅周辺でのまちづくり提案・みなまきラポでの活動/秋学期：郊外住宅地のまちづくり検討・実践（南万騎が原地区ほか）</p> <p>④月一回程度の拠点活用企画参加、週一回程度の会合、その他不定期なイベント・取材等。</p> <p>⑤みなまきラポ（相鉄グループ・オンデザイン・横浜市）ほかと協働する。会合や実践に責任を持って取組み、積極的に参加すること。</p> <p>⑥ http://minamakilab.yokohama/</p>

みなとまちプロジェクト
<p>担当教員：○志村真紀（地域実践センター） 連絡先：shimura-maki-pw@ynu.ac.jp /内線 3579</p>
<p>①「みなとまち」には、みなとまちならではの地形・産業・文化・歴史などがあり、固有の特徴から共通した特徴や課題もあります。当プロジェクトでは、昨年度に引き続き、今年度も静岡岡市の清水港を対象地として、「プランディング・リノベーション」にむけた活動を展開する予定です。活動内容としては、「Shizuoka Teatism」をキーワードとした活動や、みなとまちの街並みや景観に関わるプランディング要素のリサーチ活動を予定しています。</p> <p>②リサーチによる各みなとまちの歴史・産業・空間的特徴の修得。ワークショップ・イベント等の企画力やマネージメント能力。提案に向けた文理融合な考え方・アイデア力の修得。</p> <p>③④ミーティングは週に1回。土・日あるいは夏休み等には、清水などのみなとまちへ行くことも計画します。</p> <p>⑤東京大学, 常葉大学, 茨城大学, 九州大学と連携し活動します。</p>

学生公募型プロジェクト
<p>地域と連携した実践的な取り組みを横浜国立大学内の学生から広く公募します。学生公募型プロジェクトを立ち上げる学生は、事前にセンターへ連絡することによって、オリエンテーションの際にプロジェクトの紹介を行うこともできます。応募に関する詳細、条件、および申請書は、右のQRコードや下記アドレスからダウンロード可。</p> <p>■申請書：http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp/45form/pdf/gb_2.pdf</p> <p>■提出締切日：4月20日（金）17時まで</p> <p>■提出：地域実践教育研究センター 経済学部1号館（N4-1棟）406室</p>

かながわツーリズム
<p>担当教員：○氏川恵次（国際社会科学研究院） 連絡先：ujikawa@ynu.ac.jp /内線 3538</p>
<p>①横浜・湘南・鎌倉・箱根といった地域を事例に、豊かな自然に恵まれ、多様な文化を育んできた日本の地域の魅力が、観光によりいかに次世代やインバンドに通じるか、企業・行政・市民と連携して考えます。</p> <p>②専門分野を問わない、観光の基本的知識に加えて、実際に現場で働いている企業（JTB等）・行政（市町の観光課等）・市民の方々の、観光による新たな付加価値の発掘、まちづくりの知見等に、広くふれていただきます。</p> <p>③4月～5月 説明会、メンバー顔合わせ</p> <p>5月～7月 基本テキストの講読会、フィールドワーク（初夏）10月～1月 中間報告会、フィールドワーク（秋季）2月 最終報告会</p> <p>④基本的には、週1コマ分に相当する時間で、講読会や、学外でのフィールドワークを実施します。</p> <p>⑤観光を通じたまちづくりについて、興味関心を持っている方であれば、部局を問わず参加を歓迎します。</p>

商店街とまちを繋ぎ、子どもと大人がコミュニケーションを多くとれるまち -上星川プロジェクト-
<p>担当教員：○松行美帆子（都市イノベーション研究院） 連絡先：mihoko@ynu.ac.jp / 内線 4244</p>
<p>①上星川駅周辺地区で2018年3月に地元まちづくり団体が誘致したパン屋さんがオープンし、パン屋さんが入る新築ビルの屋上が、地域の人が集える広場として整備されます。この広場でのイベントの開催やまちの人を繋ぐ機関誌の作成などを行います。</p> <p>②・多様な人とのコミュニケーション能力・技術</p> <p>・自ら提案を作成し、周囲の人にプレゼンし、納得してもらい、その提案を周りを巻き込みながら実行していく能力・技術</p> <p>・地域の問題とは実際どのようなもので、どのような人が関わって、どのように解決していこうとしているのかという生きた知識</p> <p>③4月 顔合わせ、上星川地区のまち歩き、地元まちづくり団体（FM上星川）との会合</p> <p>5月 年間何を行うのかを学生間、FM上星川と議論、提案</p> <p>6月～ 上記で決めた活動の実施</p> <p>④月2-3回程度のミーティング、その他随時活動の実施</p> <p>⑤https://www.townnews.co.jp/0115/2017/02/16/370257.html</p>

シェアハウスのデザイン－住すまいを自分で作る－
<p>担当教員：○江口亨（都市イノベーション研究院） 連絡先：teguchi@ynu.ac.jp/内線：4064</p>
<p>①大学近辺の空き家を学生向けシェアハウスに改修することを目標に、住み手となる学生自らがデザインする実践的な演習です。安い家賃で、みんなと楽しく暮らしたい方、一緒にシェアハウスをつくりましょう！</p> <p>②すまいに関するリテラシーの向上。すなわち、参考モデルの情報収集、すまいをデザインする想像力、予算や住み手の要望などの相反する要因を総合的にまとめる構想力、また、これらを説明するプレゼンテーション技術。</p> <p>③4月～7月：シェアハウスに関する情報収集、見学などの勉強会/10月～12月：シェアハウスの設計/1月～3月：内装改修工事（所有者の了解が得られた場合）</p> <p>④年間平均で月に2回程度。なお、10-12月は計画をまとめるため、前半より負荷が上がると想定される。</p> <p>⑤2名以上の応募があった時のみ実施します。また、このPJで計画したシェアハウスに住める方が理想です。</p>

ローカルなマテリアルのデザイン
<p>担当教員：○志村真紀（地域実践センター） 連絡先：shimura-maki-pw@ynu.ac.jp /内線 3579</p>
<p>①ローカルなマテリアルのデザインを通じて、地産地消や経済的な流れをつくりだし、それによって保全できる空間・環境・風景（ex.農地・里山・水源地）をブランディングしていく活動をしていきます。今年度は昨年度から対象としているマテリアルや活動を引き続きながら、特に広葉樹を用いた家具づくりや、地域材を用いた建築空間としてケーススタディ・ハウスのデザインを検討していこうと考えています。</p> <p>②習得できる能力・技術としてはデザイン力です。プロダクト、建築、DIY、ブランディングに関する勉強会も行っていく予定です。上記を身につけることで、公共空間の賑わい創出や空家活用に向けたカフェ運営、地域産品のブランディング開発、そしてローカルなマテリアルを活かした建築設計にもつながります。</p> <p>③④週に1回程度のミーティングや実践活動。</p> <p>⑤Instagram：タグ「ローカルなマテリアルpj」で、これまでの活動の様子を紹介しています。</p>

都市の自然を楽しむライフスタイル

<p>担当教員：○小池文人(都市科学部環境リスク共生学科) 連絡先：koike-fumito-nx@ynu.ac.jp/内線 4356</p>
<p>①住民が日常的に都市の自然を楽しむライフスタイルを設計します。新しい近距離ツーリズムを開発するため、制度的な可能性、自然資源の分布と利用可能量調査、体験評価、関係者への聞き取りなどを行います。</p> <p>②都市の中に自然があることを体験的に知る。利用の制約となる制度や利害関係についての知識と、解決する広い視野を得る。自然の管理技術・能力を得る。新たなツーリズムの種目を発見する発想を持つ。</p> <p>③都市の潮干狩りと釣り、都市の山菜や食用キノコ、江戸時代から都市に残った野生植物の鑑賞、散歩、大学キャンパスの自然管理体験、など季節ごとのテーマ</p> <p>④ほぼ毎週を予定。勉強会と週末を利用した調査や体験等を行う。</p> <p>⑤野外活動を含む。週末を利用した調査や体験も行う。</p> <p>⑥http://vege1.kan.ynu.ac.jp/lifestyle/</p>

横浜「うみみらい」プロジェクト
<p>担当教員：○吉田聡,野原卓（都市イノベ研究院）,松田裕之(環境情報研究院) 連絡先：yoshida-satoshi-vx@ynu.ac.jp/内線：4249</p>
<p>①横浜市の「うみ」のポテンシャル、「うみ」と「まち」の関係を考えるべく、ブルーカーボンや海のエネルギー利用、環境再生、まちづくり等を踏まえた「うみみらい計画」をUDC-SEA（後述）と連携して考える。</p> <p>②「うみ」という様々な環境要素とつながる対象を通して、具体的に環境および地域に対してどのようなアクションを興すことができるか、「生態系」「まちづくり」「エネルギー」などを入口に横断的に考える力をつける。</p> <p>③月1回、外部組織（UDC-SEA）との会議と内部ミーティング、調査研究等を通じて、「横浜うみみらい計画」を策定する。</p> <p>④月1回、外部組織（UDC-SEA）との会議、その他、2週に1度程度のミーティング、随時。地域と連携したイベント参画等。</p> <p>⑤UDC-SEA（ヨコハマ海洋環境みらい都市研究会）と連携して取り組む。</p> <p>⑥http://ecorisk.ynu.ac.jp/matsuda/UDCSEA/index.html</p>

まちに開いた交流の場のデザイン－住宅地の価値を上げる－
<p>担当教員：○江口亨（都市イノベーション研究院） 連絡先：teguchi@ynu.ac.jp/内線：4064</p>
<p>①野毛山公園の裏の住宅地に、二軒長屋を改修して2Fをシェアハウス、1Fを地域に開いた場にした「casaco」がある。その場の使い方を提案し、運営者の了解がえられれば提案内容を実行に移し、エリアの価値向上を目指す。</p> <p>②地域に開いた場をつくるため、完全ボランティアでもなく、「稼ぐ」ビジネスを立案するのでもなく、その中間の方法を用いる。全国に広まりつつあるソーシャルビジネスの方法論の一端を、実践を通じて学んで欲しい。</p> <p>③（提案内容によって変わりますが、一例を挙げます。）4月～7月：現地視察、WSなどの運営の手伝い、企画立案8月～9月：企画選抜/10月頃：事業の実施</p> <p>④年間を通じて1～2回/月程度、イベント開催日は除く。</p> <p>⑤2名以上の応募があった時のみ実施します。また、1年間を通じて参加できる学生を希望します。</p> <p>⑥対象となるcasacoのサイト：http://casaco.jp</p>

現代世界の課題の探索と協力の実践－ネパール支援プロジェクト－
<p>担当教員：○小林晋明（国際社会科学研究院） 連絡先：kobayashi-takaaki-gv@ynu.ac.jp /内線 3611</p>
<p>①世界は紛争、災害、格差など深刻な「課題」に満ちている。そこから遠く離れた場所において外部者として世界の課題を論じることが可能だが、その渦中に身をおかなければ見えてこないことは多い。本実習は、解決すべき課題を抱えている（と思われる）地域に「押しかけ」、自らの目で現実を見て、感じた問題意識に基づいて「自分は何ができるのか」を模索し、関係者に働きかけながら「実践してみる」ことを目的とする。本年は、2015年4月に大規模な震災に見舞われたネパールをフィールドとした協力を実施した。</p> <p>②現実課題を乗り越えるべく、企画を考え、リソースを集めて、自ら「プロジェクト」を形成、運営していく貴重な経験を得られるであろう。</p> <p>③④ミーティング/フィールド実践,夏休みおよび春休み（それぞれ10日間ず）</p> <p>⑤週末や夏休みや春休みの期間の一部を割くことが可能な学生に限る。</p> <p>⑥http://www.i-c-lab.com/（HPトップから実績→Nepalへ）</p>

「地域交流科目」一覧

	学部	科目名	担当	対象学年	開講期	単位
コア科目	全学教育科目	地域連携と都市再生A(ヨコハマ地域学)	志村、内海	1～4年	春	2
	/教養教育科目	地域連携と都市再生B(かながわ地域学)	志村、池島、伊集	1～4年	秋	2
選択必修科目	全学教育科目	建築の環境と防災	田才 他	1～4年	秋	2
	/教養教育科目	横浜学―地域の再発見―	安野	1～4年	春	2
		ベンチャーから学ぶマネジメント	井上 他	1～4年	秋	2
		現代の物流経営	松井	1～4年	秋	2
		環境をめぐる諸問題Ⅰ	酒井 他	1～4年	第4ターム	1
		環境をめぐる諸問題Ⅱ	松田 他	1～4年	第5ターム	1
		グローバル化と日本人	市村	1～4年	秋	2
		色彩論	渡辺	1～4年	春	2
		健康スポーツ演習(B)	海老原	1～4年	春(不定期集中)	2
		健康スポーツ演習(B)	梅澤	1～4年	秋(集中)	2
		安全・環境と社会	澁谷 他	1～4年	春	2
		エネルギーと環境	辻	1～4年	春	2
		海事技術史	南	1～4年	春	2
		海洋工学と社会	海洋EP	1～4年	秋	2
		神奈川の暮らし	梅野	1～4年	春	2
		実践地域と起業	梅野 井出	1～4年	第3ターム	2
	教育学部	学外活動・学外学習Ⅰ	島田	1～4年	春・秋	2
		共生社会論D(社会生活論)	安藤	2～4年	春	2
		共生社会論ⅡB(国際社会学)	佐藤(峰)	2～4年	春	2
		グローバルゼーションと地域社会Ⅱ	佐藤(峰)	1～4年	秋	2
		自然地理学	吉田	2～4年	秋	2
		日本史概論Ⅰ	多和田	2～4年	秋	2
	経済学部	生物学特講Ⅰ	西	2～4年	－	2
		地方財政	伊集	3～4年	通年	4
		地方財政	伊集	2年	春	2
		地域経済政策	居城	3～4年	通年	4
		地域経済政策	居城	2年	春	2
		国際環境経済論	氏川	3～4年	通年	4
国際環境経済論		氏川	2年	春	2	
現代社会福祉		相馬	3～4年	秋	4	
現代社会福祉		相馬	2年	第4ターム	2	
比較農業政策		池島	3～4年	春	4	
比較農業政策	池島	2年	第1ターム	2		
途上国経済	山崎	3～4年	通年	4		
途上国経済	山崎	2年	春	2		
地域イノベーション政策	遠藤	2～4年	春	2		
経営学部	産業分析(※公的規制論から変更)	貴志	3～4年	H30休講	2	
	生産システム論	松井	3～4年	春	2	
	生態学計論Ⅰ	八木	2～4年	春	2	
理工学部	地域・都市計画	中村(文)	2～4年	秋	2	
	都市基盤計画	中村(文)	2～4年	秋	2	
	交通計画	中村(文)	3～4年	春	2	
	居住空間の計画	藤岡	2～4年	春	2	
	屋外気候と建築環境	田中(福)	2～4年	春	2	
	都市と都市計画	高見沢	2～4年	秋	2	
	建築・地域環境計画Ⅰ	佐土原	2～4年	秋	2	
	都市生態学	佐々木	2～4年	秋	2	
	生態リスク学	松田 他	2～4年	春	2	
	里山生態学	小池(文)他	2～4年	秋	2	
	環境管理学	中井,本藤	3～4年	秋	2	
	データサイエンス	森,田村,長尾,富井	3～4年	春	2	
	都市科学部	国際開発学講義	佐藤(峰)	1～4年	秋	2
		都市生態学	佐々木	1～4年	第4ターム	1
保全生態学		佐々木	2～4年	第5ターム	1	
生態リスク学入門		松田 他	1～4年	第1ターム	1	
里地と山地の生態学Ⅰ		小池(文)他	2～4年	第4ターム	1	
里地と山地の生態学Ⅱ		酒井 他	2～4年	第5ターム	1	
都市基盤計画論		中村	1～4年	第1ターム	1	
都市計画と交通		中村	2～4年	第4ターム	1	
都市基盤解析論		中村	2～4年	春	2	
居住空間の計画Ⅰ		藤岡	2～4年	第1ターム	1	
居住空間の計画Ⅱ		藤岡	2～4年	第2ターム	1	
建築環境計画Ⅰ		田中(福)	2～4年	第1ターム	1	
建築環境計画Ⅱ		田中(福)	2～4年	第2ターム	1	
都市と都市計画Ⅰ		高見沢	2～4年	第4ターム	1	
都市と都市計画Ⅱ	高見沢	2～4年	第5ターム	1		
都市環境リスク共生論A	佐土原	2～4年	第4ターム	1		
都市環境リスク共生論B	佐土原	2～4年	第5ターム	1		
コミュニティ開発演習Ⅰ	佐藤(峰)	2～4年	第1ターム	1		
コミュニティ開発演習Ⅱ	佐藤(峰)	2～4年	第2ターム	1		
高齢社会とリスクA	安藤	2～4年	第4ターム	1		
高齢社会とリスクB	安藤	2～4年	第5ターム	1		

- 「地域連携と都市再生A・B」や選択必修科目の授業内容は、教養教育科目および各専門科目のシラバスをご覧ください。
- 本プログラムの「地域連携と都市再生」[選択必修科目]「地域課題実習Ⅰ」はいずれも教養教育科目・専門科目の一部であり、各々は学部の単位としても認められるものです。
- 昨年度まで地域交流科目の選択必修科目に登録されていた講義で、今年度からは開講になっている講義も、修了証を取得するための科目として認定されます。